

出前講座「岩手・宮城内陸地震について」

○開催日時：平成27年5月27日（水）14時40分から15時30分
○開催場所：奥州市立前沢中学校体育館
○参加者：1年生116名、2年生123名 計239名

○開催日時：平成27年5月28日（木）9時40分から11時00分
○開催場所：岩手・宮城内陸地震 災害現場（市野々原、祭時大橋）
○参加者：1年生116名

国土交通省岩手河川国道事務所では、総合的な学習の一環として出前講座を開催しております。

5月27日（水）奥州市立前沢中学校において出前講座を実施し、1年生116名、2年生123名の計239名が参加しました。

この出前講座は奥州市立前沢中学校が、防災教育の一環として実施しているもので、学校側からの要請を受けて、当事務所調査第一課の山影課長が「北上川の洪水と土砂災害」と題して講演しました。

まず最初に、日本が災害の多い国であることを説明し、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震について、被害状況や地震がおこるメカニズム、国土交通省が実施した対応を紹介しました。

さらに、奥州市の防災マップにも触れながら、災害が起こったときにどんな行動をすべきか、事前に生徒から寄せられた質問に答えながら説明しました。

翌日は1年生がバスに乗って現場を実際に見学。「岩手・宮城内陸地震」で落橋した祭時大橋をはじめ、市野々原被災地展望広場に行き、被害状況や対策工事について学習しました。

生徒の皆さんからは「身を守るために何が必要か」「避難時には何を準備すれば良いか」などの質問が出され、自然災害に対しての心構えを学習していました。

今日の出前講座を通じて、自分達の住んでいる岩手県南地域に7年前とても大きな地震があった事、そしていざという時にどう行動すべきかを考えるきっかけになれば幸いです。



前沢中学校体育館にて、事前学習を行いました。



市野々原地区の河道閉塞箇所を見学。



落橋した祭時大橋を見学し、岩手・宮城内陸地震の被害状況について勉強しました。

